

資 料

フランス法における デジタル・プラットフォーム

I 違法コンテンツとプラットフォームの責任

ナタリー・ブラン
林 滉 起 (訳)

II デジタル・プラットフォームと消費法

クレール・マリー・ペグリオン・ジカ
石 尾 智 久 (訳)

III デジタル・プラットフォームと環境

ムスタファ・メキ
小野寺 倫 子 (訳)

IV プラットフォーム法の出現

——オンライン紛争解決プラットフォーム——

ソラヤ・アムラニー・メキ
張 子 弦 (訳)

V デジタル・プラットフォームの準拠法

ベルナール・アフテル
越 智 幹 仁 (訳)

掲載にあたって

山城 一 真

以下に収める 5 編の論稿は、2022年10月25日に開催された「フランス法におけるデジタル・プラットフォーム」と題する講演（主催：先端科学の法・倫理研究所（プロジェクト研究所）、共催：早稲田大学比較法研究所）のために用意されたフランス語原稿の翻訳である⁽¹⁾。

各論稿は、民事責任法、消費者法、環境法、民事手続法、国際私法の各分野におけるフランス法の現状を紹介しつつ検討を加えるものであり、この問題に関する最新の議論状況を網羅的に取り扱っている。フランス法にとどまらず、EU 法の状況を伝える点においても、学術的資料として大きな価値を有すると考え、主催・共催の両研究所による活動の成果として公表することとした。

最後に、各論稿の翻訳にあたってお力添えをいただいた 5 名の先生方に対して、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

(1) なお、当初、講演が予定されていたムスタファ・メキ教授（パリ第 1 大学）とソラヤ・アムラニーメキ教授（パリ・ナンテール大学）は、諸事情により来日することが叶わなかったため、報告原稿を配布することをもって講演に代えた。